

## 令和6年度 山三留守家庭児童育成室運営業務 実施状況報告書

## 1 法人名称

社会福祉法人 光聖会

## 2 保育方針・保育目標

保育方針	家庭及び社会における生活を営む上で、必要な基礎的習慣の習得を図る
	◎仲間と協力し、思いやりの心を育む。
	◎自主的な生活づくりができるようにする
	◎言葉で自分の思いを表現する力を身に付ける
保育目標	【集団づくり】仲間と協力し、思いやりの心を育む
	【生活】自主的な生活作りができるようにする
	【遊び】様々な遊びを通して、協調性や社会性を育む
	①【安心】…子どもと保護者と職員が互いに信頼しあえる ②【穏やか】…おうちのように暖か ③【楽しい】…みんなが笑顔に過ごせる ④【面白い】…新しい発見や気づきがある ⑤【人とのつながり】…仲間とともに共感しあえる心を持てるように ⑥【人とのぬくもり】…仲間の気持ちを思いやれるように ⑦【人とのみとめあい】…自分の気持ち・思いも大切にしながらも仲間を尊重できるように 山三小学校校舎の虹の絵と一緒に 7色の希望と目標

## 3 児童数・教室数（令和7年3月1日時点）

児童数66人（うち配慮をする児童4人）					教室数
内訳	1年	2年	3年	4年	5・6年
	21人	23人	18人	4人	0人

## 4 職員体制

## (1) 配置状況

定数 6人			実配置数（週5日換算） 15人		
内訳	基準配置 (教室数× 2人)	要配慮児 加配	内訳	週5日 勤務	週4日以下勤務
				実人数	週5日換算
	4人	2人		4人	11人

## (2) 有資格者等の状況

有資格者		実務経験年数	
放課後児童支援員	その他※	主任指導員	主担任（平均）
3人	2人	8年	7.5年

※保育士、教員免許等

## (3) 研修受講状況

府主催	放課後児童支援員資格	2人	独自	新人育成者研修	1人
	ティーチャートレーニング	3人		一緒に生活する育成室での集団づくり	1人
	ワークショップ	1人		集団における要配慮児保育	1人
	発達の道筋（11～12歳）	1人		新人職員フォローアップ研修	1人
	子どもの権利条約	1人		キャリアデザイン研修	1人
				応急手当WEB講習	1人
				応急手当実技研修	1人
				園長（学童リーダー）研修	1人
				エピペン研修	1人

#### (4) 従事者の変更

主任指導員 0人			主担任 0人		
内訳	異動	退職等	内訳	異動	退職等
	0人	0人		0人	0人

### 5 保育内容

#### (1) 主な季節行事、親子参加型行事、その他イベント

月	内容	月	内容
4月	自己紹介、お花見、お誕生日会（以降毎月）、避難訓練（不審者対応）	10月	親子参加型行事②（ミックスリレー・追っかけ玉入れ）、山五交流③（ドッジボール）、避難訓練（地震）
5月	班グループ活動（班構成等）・山五交流会予行演習（リハーサル準備）	11月	けん玉検定表、避難訓練（不審者対応）
6月	山五交流①（しつぽとり）、親子参加型行事①（しつぽとり・カードめぐり）	12月	デイキャンプ（3・4年生のみでわくわくの郷）、お楽しみ会、太陽の広場合同避難訓練（地震）
7月	オリジナル帽子製作、タイダイ染め、遠足（キッズプラザ大阪）、避難訓練（地震）	1月	書き初め（目標設定） 避難訓練（火災）
8月	水遊び、すずめまつり、山五交流②（映画鑑賞）、避難訓練（地震）	2月	節分あそび（追っかけ玉入れ）、親子参加型行事③（逃走中）、避難訓練（地震）
9月	避難訓練（火災）	3月	卒室式、入室説明会、お別れ遠足（ドリーム21）

#### (2) 保護者負担の軽減や児童の育成に係る独自の取組

名称	内容
そろばん学習	タマイインベストメントエデュケーションズによるそろばん活動
夏休みの課外教室	体操・英語（1～4年生） (専門講師の先生を迎えての課外教室)
夏休みのお弁当提供	夏休みに週に1回のお弁当提供
遠足・デイキャンプ(3・4年生のみ)	遠足（キッズプラザ・大阪）・お別れ遠足（ドリーム21）・ デイキャンプ【3・4年生のみ】（吹田市自然体験交流センターわくわくの郷）

#### (3) おたより発行回数 19回

#### (4) 事故報告件数 5件

#### (5) 保護者からの主な要望・相談事項及び対応・改善状況（おやつ・行事等）

##### その他、保護者との連携事例等

要望・相談、連携事例等	対応・改善状況、連携事例等の内容
①言葉遣いの悪い児童がいて怖がっていると相談を受けた。 ②抜毛症の傾向が見られる児童に気付き保護者や学校へ報告・相談をした。 ③宿題中周りがざわざわして集中できないことがあると相談を受けた。	①該当児童に対する継続的な指導を行い、クラス全体にも言葉遣いについて考えるよう都度伝えた。 ②抜毛症の傾向が見られる児童について学校・保護者と連携し医療機関へ繋げ、改善へ向かった。 ③宿題中はなるべく静かにするよう全体へ声をかけていた。注意を受けても騒がしくしている児童には都度指導を行っている。周りが気になってできないという児童へのフォローを行った。